

中期経営計画  
2018とは?

横浜市下水道事業中期経営計画2018は、持続可能な事業運営に向けた実行計画です。  
「主要な施策と主な取組 (6つの柱)」「財政運営・人材育成の取組 (3つの柱)」について、29の施策の基本方針の下、129の個別取組を進めています。  
計画年度：2018～2021年度 (平成30～令和3年度) の4年間

中間振り返り  
とは何ですか?

中期経営計画の振り返りを迎えた、計画期間の前半2か年にあたる2018年度、2019年度の取組をもとに29の施策の基本方針毎に評価を行い、9つの柱別に振り返りを行いました。  
計画の後半2か年においては、今回の振り返り結果を踏まえつつ、社会情勢等の変化に柔軟に対応しながら計画を推進していきます。

基本方針別の評価の見方：A予定を上回り進んだ B概ね予定通り進んだ C予定を下回った ※社会情勢等を踏まえた新たな取組や評価にあたり考慮すべき実績等があった場合には、それらを考慮した評価とし、( )に定量的な計算に基づくランクを併記しました。  
(凡例 ①など：施策の基本方針)

柱(9)

施策の基本方針(29)

個別取組(129)

(中期経営計画2018体系)

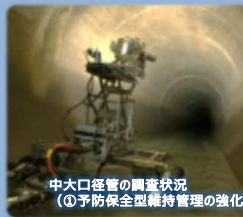
主要施策と主な取組(6つの柱) 振り返り (第4章)

柱1 下水道施設の維持管理・再整備 P.7-8

- 評価
- ① 予防保全型維持管理の強化 **A(B)**
  - ② 必要な機能向上を図りつつ、計画的な再整備を推進 **B**

振り返り

【順調】  
下水道管の清掃と調査を兼ねたスクリーニング調査実施や新たに中大口径間の維持管理の包括的民間委託の導入検討を進める等の予防保全型の維持管理を進めました。また、老朽化の進行に応じた下水道管の更新を順調に進めました。



柱2 地震や大雨に備える防災・減災 P.9-12

- 評価
- |        |                                |                           |
|--------|--------------------------------|---------------------------|
| 【地震対策】 | ① 下水道施設の耐震化の推進 <b>B</b>        | ① 計画的な浸水対策の着実な推進 <b>B</b> |
|        | ② 被災時のトイレ機能を確保 <b>B</b>        | ② 自助・共助の促進支援 <b>B</b>     |
|        | ③ 下水道BCPに基づく危機管理体制の確保 <b>B</b> | ③ グリーンインフラの活用 <b>B(C)</b> |

振り返り

【順調】  
地震対策については、一部遅れが出ましたが、地域防災拠点や幹線下水道の耐震化は順調に進めました。浸水対策については、大岡地区の対策が完了するとともに、横浜駅周辺や戸塚地区の対策を進めたほか、グリーンインフラを活用※(柱3参照)しました。



柱3 良好な水環境の創出 P.13-14

- 評価
- ① 下水の適正な処理の推進 **B**
  - ② 合流式下水道の改善の推進 **C**
  - ③ グリーンインフラの活用【再掲】 **B(C)**

振り返り

【概ね順調】  
下水処理の高度化や合流式下水道の改善については、一部遅れが出ましたが、着実な整備により下水道の普及率は概ね100%を達成するとともに、公園やこれまでにない主体と連携した保水・浸透機能等を高める取組※に着手し推進しました。



柱4 エネルギー対策・地球温暖化対策 P.15-16

- 評価
- ① 下水汚泥のエネルギー・資源としての再生活用 **B**
  - ② 下水道の資源・資産を最大限に活用した省エネルギー・創エネルギー **B**

振り返り

【順調】  
北部汚泥資源化センターにて汚泥燃料化施設などが2019年度に稼働したことや省エネ設備の導入等により、目標を上回る温室効果ガスの削減を達成しました。また、新市庁舎に再生水(下水処理水の活用)の供給を開始しました。



柱5 国内外へのプロモーション活動 P.17-20

- 評価
- |         |  |  |
|---------|--|--|
| 【国際展開】  | ① 新興国等の水環境問題の解決に向けた公民連携による国際展開の推進 <b>B</b> | ② 国際展開を担う人材を育成 <b>B</b>                |
| 【広報・広聴】 | ① 様々な媒体を活用した事業の透明性確保 <b>B</b>              | ② 環境教育を通じた環境行動の促進と下水道のイメージアップ <b>B</b> |

振り返り

【順調】  
フィリピン国セブ市では、これまでの計画策定への協力等により、国の無償資金協力事業(20億円)の実施が両国で合意されました。また「下水道展'19横浜」で民間企業や教育機関と連携した取組を実施するなど、情報発信をしました。



柱6 技術開発 P.21-22

- 評価
- ① 未来の社会に貢献する技術開発 **B**
  - ② 下水道事業の課題を解決する技術開発 **B**
  - ③ 下水道事業に関する最先端の知見の収集・蓄積と国内外への発信 **B**

振り返り

【順調】  
水素製造・利用の事業スキーム検討、水位計の設置と水位予測の検討を進めるとともに、下水道運営の知見の共有を図るため、バリ広域圏下水道事務組合(SIAAP)との覚書を締結しました。



財政運営・人材育成の取組(3つの柱) 振り返り (第5章)

【持続可能な事業運営を支える財政運営】

柱1 収入確保の推進 P.23-24

- 評価
- ① 財源の確保 **B**
  - ② 資源・資産の活用 **B**
  - ③ 未処分利益剰余金処分 **A**

振り返り

【順調】  
下水道未接続世帯の訪問等による使用料確保の取組を進めるとともに、計画を上回る国庫補助金を確保するなど、目標を達成できました。

柱2 支出削減の推進 P.25-26

- 評価
- ④ コストの削減 **B**
  - ⑤ 民間活力の活用 **B**
  - ⑥ 企業債未償還残高削減 **B**

振り返り

【順調】  
安価な電力調達や効率的な工事の施工、PFI等の民間活力の活用、企業債発行額の抑制等により、目標を達成できました。

柱3 事業を担う人材の育成 P.27-28

- 評価
- ① 研修等を通じた技術・ノウハウの継承及び定着 **B**
  - ② 経験を培い、視野を広げる機会の提供 **B**
  - ③ 公民連携を推進し、職員の技術力向上 **B**

振り返り

【順調】  
ベテランから若手への技術継承ワークショップ、若手を中心とした国際貢献・交流活動、民間企業や国との連携プロジェクト等を実施し、ノウハウ継承や能力向上を図りました。

中間振り返りをさらに  
詳しく知りたい方へ

横浜市下水道中期経営計画2018は、129の個別取組に4か年の目標を設定しており、施策展開及び財政運営を行っています。  
中間振り返りの本編ではこれら129の取組についての毎年の実績値や達成状況を示していますのでぜひご覧ください。  
本編はこちら・・・<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kasen-gesuido/gesuido/keiei/chukikeiei/gesuityuuki2018.html>



このレポートをご覧になったご意見やご質問をお聞かせください。  
また、横浜市環境創造局のホームページでは、中間振り返りの元となる「横浜市下水道事業経営計画2018」など、たくさんの情報を発信していますのでぜひご覧ください。

- 電子メール・・・ks-asset@city.yokohama.jp
- ホームページ・・・<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/suido-gesui/gesuidou/>

